

CONTENTS

●特集	2
わたしたちのクラブ活動紹介します!!	6
教職員紹介/留学生の今	8
ゼミに直撃!	9
大学にプラス!	10
地域にプラス!/公開講座	12
就職活動最前線	14
若桐会Letter	15
学園100周年プロジェクト	16

特集

地域で学ぶ! 第4回 大江戸新座祭り
魅せた! 十文字女子大連が
阿波踊りに初参加

学園100周年プロジェクト

十文字学園は2022年に創立100周年を迎えます

これまでの100年が、これからの100年を創る

十文字学園は、1922（大正11）年に東京の巣鴨の地に設立され、2022年に創立100周年を迎えます。創立者である十文字こと先生は、「教育を受けたいと思う女性がひとりでも多く学べる私立学校をつくりたい」という強い願いのもと、東京女子高等師範学校時代の友人とともに十文字学園を設立しました。

十文字学園では、この記念すべき節目にさらなる一歩を踏み出すため、この100周年を次の100年への結節点としてとらえ、「これまでの100年が、これからの100年を創る」というコンセプトを掲げ準備を進めています。

そしてこの機会に十文字学園創立の理念や業績を振り返ることで、「世の中にたちてかひある人」の育成という今後100年においても変わらぬ学園の使命を再確認し、それを広く社会と共有したいと考えています。女性が生き生きと活躍する時代の実現に、学園を挙げて邁進していきます。

（100周年プロジェクト事務局）



創立当時の校舎



創立者 十文字こと先生

今後のスケジュール

- ・100周年記念ロゴマークを募集し、ただいま選定中です。発表は2018年11月を予定しています。
- ・2019年2月15日（学園創立記念日）、学園ホームページに100周年記念サイトを開設予定です。
- ・創立100周年の記念行事や記念募金を計画しています。

第52回

桐華祭

開催のお知らせ

2018年 10/27(土) 10:00~17:00
28(日) 10:00~16:00

ぜひ、お越しください。

Jumonji Press No.47
2018年10月5日発行

発行：十文字学園女子大学
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
Tel 048-477-0555（代表）

編集：十文字学園女子大学 広報部
編集指導：石野 榮一（メディアコミュニケーション学科教授）
取材協力：ライターデザイン部 青井 沙蘭、天羽 菜月、
加々見 優音、金子 葵、川上 奈恵、田中 菜穂、
三輪 奈央、大山 彩花、竹山 智美、唐津 奈々子、
蛭川 美佳子

制作協力：ケイ・アイ・エス 有限会社

表紙の写真

2018年3月、6号棟1階に調理学実習室が完成しました。教員の手元を映し出す大型モニターや、360度撮影可能なカメラを天井に備えるなど、視聴覚設備が充実しています。最新式の調理台は、木目調と人工大理石を組み合わせたもので、落ち着いた雰囲気の中、衛生管理にも配慮した清潔な環境で実習を行っています。表紙に登場しているのは、「基礎調理学実習Ⅰ」を履修する健康栄養学科の1年生です。

編集後記
みなさまのご協力のもと、第47号のJumonji Pressを発行することができました。
暑い暑い夏の日、汗を輝かせながら笑顔で踊る学生たちの姿が、今号の見どころです。保護者の方々、志村学長をはじめとする教職員から熱のこもった声援が送られました。学生たちは地域に育てられながら、様々な挑戦をしています。あたたかいご協力、ご支援に深く感謝いたします。
ライターデザイン部部長 三輪 奈央

魅せた！

十文字女子大連が 阿波踊りに初参加



華麗な手さばき足さばきで踊る「十文字女子大連」

7月21日、地域文化について学び、実践するための授業として「新座快適みらい 第4回大江戸新座祭り」に学生が参加。最高気温が35℃を記録する中、集まった多くの人たちの前で、練習の成果を披露しました。

大江戸新座祭りとは

32年続いた新座阿波踊り大会を引き継ぎ、2015年から「大江戸新座祭り」として新座市を盛り上げている夏の風物詩です。

一かけ 二かけ 三かけて 四かけた踊りは止められぬ
五かけ 六かけ 七かけて 八つぱり踊りは止められぬ
ア、ヤットサー ア、ヤットヤット

最大の連である新座市役所連の掛け声が聞こえてきたはるか向こうに、十文字カラーのピンクの法被を着た学生たちが、高張提灯を先頭に笑顔で踊り始めました。「ヤットサー ア、ヤットヤット ア、ヤットヤット ヤットサー ヤットサー」

法被の背中に描かれた本学マスコットキャラクター・プラスちゃんの顔が、総勢約830人の踊りの参加者の中で見え隠れします。踊り手を先頭にした連の後方には、三味線を筆頭に鉦や笛、太鼓等で編成された鳴り物の学生たちが続き、阿波踊りの2拍子を奏でます。笛の学生が主旋律を奏で、大太鼓と締太鼓が鉦に合わせて軽

15分間、腕の上げっぱなしは つらいけど来年も参加したい

踊り手
食物栄養学科 1年
高橋 里瑛さん

練習で腕も腰も足もパンパンになりましたが、阿波踊りを教えてくださった地域の方々との触れ合いは貴重な経験になりました。授業を通して地域貢献の意義も学びました。将来は管理栄養士として地域に役立つ人になり、こうした地域活動にも携わっていきたいと思います。

快なりズムで囃し立てます。

今年、「第4回大江戸新座祭り」のメインイベントである阿波踊りに、本学の学生たちが「十文字女子大連」として初めて参加しました。地域に根ざした伝統を知り、大学生の若いパワーで地域の活性化に貢献するのが目的ですが、全員阿波踊りは未経験。「踊り手」と「鳴り物」のチームに分かれ、「新座阿波おどり振興協会」の方たちの指導を受けながら、4月から始まった前期15回の授業でこの日のために仕上げてきました。

今年7月の東日本の気温は連日35℃を超え、1946年の統計開始以降最高となった炎暑。今回学生が挑戦したのは「男踊り」ですが、阿波踊りは男踊りでも艶っぽく上品な雰囲気での踊るのが巧い踊り手といわれます。涼しい顔で終始笑顔を絶やさず踊り奏で、練習の集大成を披露する学生たちに、沿道の人たちから熱い声援が送られました。



鳴り物を担当した学生たち

リーダーなんて自分には 絶対無理! と思いましたが...

鳴り物担当
文芸文化学科 3年
大森 望海さん

めったに経験できない鉦や太鼓などを習えたこと、技量が上がるにつれてみんながまとまっていく過程が楽しかったです。将来は地域に貢献する仕事に就きたいです。卒業しても、阿波踊りの裏方サポート役として参加したいと思います。



踊りは夜まで続きました

卒業生も参加

衣装を身につけると、 ヨシ! と気合が入ります

人間発達心理学科 2016年卒業
増木工業(株) 勤務
藤井 美咲さん

増木連で2回目の参加です。職場の先輩たちと週2回練習をしてきました。練習も楽しかったし、これからも踊り続けようと思います。

先輩たちへのメッセージ

大学4年間にいろんな経験をしたほうがいいですよ!



練習初日



「阿波踊りのリズムは腰でとることが肝心です」「鉦は指揮者の役割。太鼓のリズムが合わないと踊り手は上手に踊れません」。「新座阿波おどり振興協会」の方々から男踊りの基本姿勢と足運び、「鳴り物」の役割を教えてくださいました。



人間発達心理学科2年の北村由佳さんも参加している「新座天馬連」。高校生・大学生たちが、天馬連流にアレンジしたキレのある踊りを披露してくださいました。



「鳴り物」チームの練習風景。大太鼓を打つ時の手首の使い方、腕の振り方を教わる学生です。革を打つ箇所、パチさばきの強弱によって音色がまったく変わります。基本的には叩けば音は出ますが、しっかりとしたリズムを刻みながら音の強弱をつけて叩けるようになるまでが大変。本番は、ドンドンと腹の底に響きわたるダイナミックな音で、阿波踊りの躍動感や激しさをさらに盛り立てました。

本番間近



「踊り手」チームの練習風景。7月に入ってからそろいのピンクの法被と白足袋で練習しました。衣装を着ると緊張感が増します。「さあ、みなさん。もうすぐ本番です。腕は肩より上に!手のひらはきちんと八の字になっていますか?」。右手と右足を一緒に斜め前に出したら、手のひらは正面に向ける。足は爪先を前に出す。かかとは内側に、爪先は外側に。各自が2拍子のリズムを取りながら、足運び、手の振り方を丁寧に一つひとつ確認しました。



暑さに慣れるため構内でも練習

私たちが給水ボランティアスタッフとして奮闘しました



連に参加した34名以外にも、給水ボランティアスタッフとして活躍した学生たちがいました。熱中症対策に人工霧を撒いたり、各演舞場での踊りの合間に冷たい水を配ったり。演者のみなさんや観覧していた人たちから「嬉しい」「ありがとう」とたくさんの感謝の言葉をいただきました。これからも地域に根ざした活動を行っていききたいと思います。

大学COC事業と大江戸新座祭り

「なぜ本学は授業に「阿波踊りへの参加」を取り入れたのか」

本学では2014年に文部科学省の地（知）の拠点整備事業（COC事業）の採択を受けたことを契機に、「新座市をキャンパスに!+（プラス）」となる人づくり、街づくりをテーマとし、新座市を中心としたエリアを学外キャンパスとして活動してきました。また、近隣の自治体（新座市、朝霞市、志木市、和光市、清瀬市）と包括連携協定を締結し、連携しながら事業を展開しています。



したものです。

大学が地域を志向した教育・研究・社会貢献を積極的に進め、様々な問題解決に取り組むことで、地方創生を担う地域の「知」の拠点となり、さらには地域に必要な人材の育成を目指しています。

今回の大江戸新座祭りへの初参加は、授業に地元新座市の祭りを取り入れることで地域の伝統を学び、かつ学生たちのパワーで地域の活性化に貢献しようという試みで、新座市をキャンパスに、地域での学びを実践したものです。

授業は前期15回、総合科目「新座の祭り」とまちおこし」（担当教員…児童教育学科 星野敦子教授）で行い、4月から45名の学生が履修しました。全員が阿波踊り未経験でしたが、「新座阿波おどり振興協会」の方々の指導を受け練習を重ねました。本番の7月21日には学生34名が参加しました。構成は、

- ・踊り手…22名（男踊り）
- ・鳴り物…12名（鉦、笛、大太鼓、鼓、締太鼓、三味線に各2名）でした。

Voice



新座市
並木 傑 市長

「第4回大江戸新座祭り」への御参加ありがとうございました。本市で日々学び、活躍されている学生の皆様に、御参加いただいたことで、人々に元気を与え、地域の活性化につなげることができました。初めての御参加にもかかわらず、力強い踊りと鳴り物の演奏に、若いパワーを感じ、大江戸新座祭りがさらに盛り上がりました。今後も、様々なことに挑戦し、大いに活躍されますことを御期待申し上げます。最後に、参加に当たり御尽力いただきました十文字学園女子大学の先生方、御指導いただきました阿波おどり振興協会の皆様に心から感謝申し上げます。

Voice



十文字学園女子大学
志村 二三夫 学長

本学は地域に根ざした大学として地域に支えられ、共に発展し、幅広い職業人養成をしてきました。2014年にCOC事業に採択され、地元新座を中心に地域との連携・協力が一層進み、学生達は地域に飛び出し、地域の皆様に先生に経験知を高めています。これからも地域と仲よく、「地域と融和をはかる存在でありたい」、この願いが今回の大江戸新座祭り・阿波踊りにつながりました。貴重な機会を頂戴し、様々な形でご支援頂いた皆様に心より感謝するとともに、学生達が踊りで地域の皆様に元気をおすそ分けできたようで、とても嬉しいです。

心身共に 鍛えていく 茶道部

部長
文芸文化学科 3年
前島 望奈



「和敬清寂」。茶道の心得を示す言葉で、主人と客人が互いに敬い合い茶室の雰囲気は清浄に保つという意味です。私たち茶道部はこの言葉を胸に部員同士がコミュニケーションを取り合い、互いに尊敬し合うこと忘れず、和気あいあいと楽しく活動することを心がけています。

茶道部は、毎年「桐華祭」や平林寺で行われるお茶会で来場者の方にお茶をふるまっています。こうした活動の時には緊張からミスをしてしまったりすることもあります。部員同士がフォローし合い、お客さまにリラックスして過ごしていただけるようにしています。お客さまと亭主が敬い合い、リラックスして同じ時間を過ごすことで、茶道部のモットーである「和敬清寂」の空間が作られるからです。

お点前をスムーズに行えた時や先生に褒めていただいた時、外部の方に「おいしかったよ」と言っていただけの時はとても充実感があり、これからも頑張ろうと思います。

- 活動日
毎週火曜日・金曜日
- 活動場所
秋桜館1F 和室
- 活動内容
桐華祭、平林寺ライトアップ茶会
- 部員数
24名



茶道はスポーツなどのように目に見える結果はありませんが、作法を覚え、繰り返しお点前の練習をする中で、自分の成長が感じられます。お客さまのために茶室や道具を用意しおもてなしをすること、お抹茶だけでなく空間そのものを楽しんでいただく日本人の「おもてなし精神」は自己のこころの成長に繋がっていくと日々感じています。

モットーは 「ダンスを楽しむ」 ダンス部

部長
幼児教育学科 3年
沖澤 歌緒



ダンス部のモットーは、部員全員が「ダンスを楽しむ」ということです。

現在、1〜3年生合わせて53人が、コーチの指導のもと楽しみながら技術向上を目指し活動しています。

ダンスのジャンルは、ガールズ、ジャズ、ロック、ヒップホップなど様々で、ジャンルごとに分かれたり、1つのナンバーを部員全員で集まって練習したりしています。そしてその成果を、学園祭「桐華祭」や、新座市にあるふるさと新座館で開催される「@home」というイベントのステージで、大勢の人たちを前に発表しています。

活動する上で私たちが大切にしていることは、ダンス部だからこそ経験できる「3つの楽しさ」です。

- ・1つ目は、学科、学年の枠を超え、交流しながら活動できる楽しさ
- ・2つ目は、「一つひとつの個性」を大切にしながら、作品を作り上げる楽しさ

- 活動日
毎週月曜日・木曜日
- 活動場所
サブアリーナ
- 活動内容
桐華祭、学友会イベント、@home(コーチ主催のイベント)
- 部員数
53名



・3つ目は、ステージの上に立ち、表現する楽しさ

その楽しさを感じるために、部員全員で支え合い、励まし合いながら大好きなダンスを続けています。私自身、クラブ活動を通して、とても素敵な仲間に出会えた。一人では成し遂げられないことも仲間となら乗り越えられると様々な場面で感じてきました。ダンス部で過ごした日々は大学生活の中でかけがえのない宝物です。

飯田路佳教授

教職員紹介

学生時代は人間形成に大きな影響を持つ年代。親や兄弟、友人はもちろん、普段の学びの中で教職員から受ける大なり小なりの影響は少なくないはず。そんな大学の教職員を紹介していきます。

今回、お話を伺ったのは健康栄養学科教授の飯田路佳先生です。いつも明るくパワフルで、授業では学生を盛り上げてくれます。また、学生個人の相談にも親身になって聞き手に徹してくれる優しい先生です。

飯田先生は、両親が大学の教員をしていたことから子どものころより教員という職業を意識するようになり、自然な流れで大学教員になったそうです。専門は健康増進学。高齢者向けの健康を維持するダンス指導はとても好評です。また、指導者講習会や東京オリンピックに向けての「ダンスチャレンジ20200」というプロジェクトなど幅広い活動に関わっています。

先生は授業の際、「とにかく学生が

持っている力を90分の中で最大限発揮できるようなカリキュラムやプログラムにしておくこと」を意識しているそうです。さらに「学生の相談に応じる際は、何がしたいのか、何を言いたいのかを親身に聞き取り、考えを自分でまとめさせるように意識している」とのことでした。

飯田先生は、「入学時の初々しい感じから4年間で成長していく過程を見られることと、夢を見つけて色々な経験をしながら、社会に巣立っていくのを目の前で見られることが教員冥利に尽きる点」とおっしゃっていました。

同じ女性として憧れる素敵なお先生です。

(ライターデザイン部 唐津奈々子、蛭川美佳子)



Let's Dance!!



留学生の今

本学では学部、大学院、留学生別科で数多くの留学生が学んでいます。他方、カナダやイギリス、中国の大学に留学する制度もあります。今回は、カナダに留学中の鳥羽葵衣さんからの便りを紹介します。

「充実した留学生活」

(カナダ ノーザン・ライツ・カレッジ NLC)
人間発達心理学科 3年 鳥羽 葵衣さん

本学のNLC奨学金制度を利用して、今春からカナダのノーザン・ライツ・カレッジで学んでいます。海外留学に応募したのは、英語力を上げたかったこと、そして周囲に気兼ねしてなかなか「自分」を出すことができない消極的な性格を変えたかったからです。留学中はいろんな体験にチャレンジして、人間的にも大きく成長できればと思っています。

NLCのカリキュラムは、通常の講義のほか、発音練習やディスカッションなどの参加型授業も多く用意されていて、実践的な英語力を身につけることができます。クラスの人たちはみんな親切で、道ですれ違う時も気軽に声をかけてくれるようなフランクな人たちがばかり。放課後には、大学のキャンパスやカフェなどで友人たちとおしゃべりしたり、ピリヤードなどを楽しんだりしています。また、バドミントンやバレーボールをする地域のグループや町のイベントなどに参加し、地元の人たちとも積極的に交流を深めています。

留学を考えているみなさんへ

留学当初は、誰でも勝手が分からないことが多いもの。そういう時は、相手が先生でも学生でも遠慮なく聞きましょう。私自身、「今聞いたら邪魔じゃあうかな」「これを聞いたら失礼かな」と考え過ぎてしまっ性格なのですが、勇気を出して聞いてみたら気になるほどでもなかったということばかりです。表現は拙くてもどんどん会話することで英語は上達します。そのためには、留学前にしっかりと勉強して、使える英語の語彙を増やしておくことも大切なポイントです。



ファースト・ネーション(カナダの先住民)について仲間と一緒に学ぶ鳥羽さん(前列右から2人目)

幼児教育学科

菟崎伸一郎ゼミ

ゼミに直撃！ Vol.2

『あえて学生の主体性に任せる』

菟崎ゼミでは、現在4年生11名が子どもの声、子どもの音環境、子どもの音楽などを専門テーマに研究に取り組んでいます。内容は子どもの音感や声域、童謡・わらべ歌など多岐にわたります。菟崎ゼミでの研究目標は『自分のためになる研究をする』『現場でやってみたいことを研究する』『読んだ人が勉強になる研究をする』です。それらの目標をもとにテーマを決めていきます。

研究方法も内容に合わせ、文献研究のほか、幼稚園や保育所での実験・観察など様々な方法をとっています。例えば、菟崎先生と一緒に幼稚園で演奏し、子どもたちが生演奏に出会った時の様子を観察し、その結果を考察する研究などもしています。幼児教育学科は教育実習が多い学科なので、実習に配慮しながらの研究指導です。頻繁に個別指導を行い、数回に一度、全員で集まって中間発表を行うというスタイルをとっています。



菟崎 伸一郎専任講師
専門：幼児音楽、声楽
経歴：東京藝術大学音楽学部
声楽科テノール専攻卒業
東京藝術大学大学院音楽研究
科修士課程独唱専攻修了

菟崎ゼミの指導のモットーは『学生を信じ、学生の主体性に任せる』。「安易に答えへと導くのではなく、多彩な選択肢やヒントを学生に示しながら指導を進めていくことで、一人ひとりが自ら考え、主体的に研究に取り組んでいけるよう配慮しています」と菟崎先生は話します。

ゼミ全体としては『研究は真面目にしっかりと、それ以外は和気あいあいと楽しく』をモットーに、はじめをしっかりつけることを意識しているそうです。そのため、菟崎先生と学生との関係だけでなく学生同士の関係でも『親しき仲にも礼儀あり』という言葉をおろそかに接するよう指導しているとおっしゃっています。

・ゼミ生に聞きました・

どんな先生ですか

とにかく親しみやすい先生です。面談時にはニコニコと親身になってお話をしてくださり、イベントの時には学生と一緒に張り切る姿が印象的です。今は、和やかで優しく温かい笑顔ですが、これから卒論で追い込まれていく私たちにどんな厳しいご指導が待っているのか楽しみでもあります(笑)。

ゼミの雰囲気はいかがですか

ズバリ和気あいあいです。菟崎先生のお誕生日にはみんなでケーキと輪飾りを用意してパーティーをしました。個性的なメンバーがそろっています。菟崎ゼミというところで音楽好きなところはみんな共通。空き時間に好きな歌手の話や、吹奏楽のコンクール曲を鑑賞して過ごすこともあります。



菟崎先生にお会いして

担当講義は歌唱法やピアノ実技、幼児音楽論。研究分野は保育者養成校学生への歌唱指導法、幼児音楽、声楽という音楽に囲まれた先生です。研究室の近くに行くと、先生の歌声やクラシック音楽が聴こえてくることがあります。「J-POPも聴くし、カラオケも好き」とおっしゃっていました。顧問をしているミュージカルクラブでは、学園祭に向けて練習する学生たちへ、歌唱指導を中心に様々な方面からサポートをされています。

取材時も温かく笑顔で迎えてくださり、穏やかな雰囲気づくりの中、話が弾みました。まず、本当に歌や音楽が好きなのだということが伝わってきました。「子どもの前で歌うと、年齢によって、歌を聴いた時の反応が全然違うんだよ」と、楽しみに話される様子が印象的でした。先生は過去の卒業研究を本棚に学年ごとにまとめ、いつでも見ることができるようになされていました。一人ひとりの研究内容やその時のエピソードなどを教えてください、ゼミの学生を大切にしていることが伝わってきました。

十文字 TOPICS

5/13
新座牡丹
クイーン



初代「新座牡丹クイーン」に

(児童教育学科2年 和栗 あかりさん)
新座市総合運動公園内新座牡丹園で開かれた「新座牡丹クイーンコンテスト」において「牡丹の花が似合う人」という選考基準のもと、和栗さんが初代クイーンに輝きました。和栗さんは「今後は積極的に市の活動に参加し、市の良さを伝えていけるよう努力します」と抱負を語っています。

4/1
十文字女子大
通り



「十文字女子大通り」の副愛称が誕生

(学友会)
本学正門前の恵山通りに、「十文字女子大通り」の副愛称がつけました。地域に根ざす大学として、親しみやすくより一層地域に愛されるよう学友会の学生と教職員を中心に毎月の清掃活動に取り組んでいます。

4/5
一日警察署長



一日警察署長を務めました

(幼児教育学科3年 安部 花梨さん)
2018年春の交通安全運動の出発式で、一日警察署長の役目を務めた安部さんは「新座市内の大学で学ぶ者として、交通事故が一件でも少なくなることを願います」と挨拶した後、新座駅周辺で啓発活動を行いました。

5/24
サッカー
国際交流



駐日米国大使公邸レセプションに 本学学生が招待されました

(カレッジスポーツセンター 石山 隆之教授)
ウィリアム・ハガティ駐日米国大使公邸レセプションに、志村二三夫学長をはじめ、本学サッカー部部員、FC十文字VENTUSの選手が招待されました。

研究活動やスポーツ、ボランティア、各種イベントなど、キャンパスの内外で多彩な活動を展開する十文字学園女子大学の学生・教員たち。このコーナーでは、そうした日々の活動や出来事をご紹介します。

8/23
理科実験
教室



十文字元気プロジェクト プラスちゃんといっしょ ープラスと学ぶ理科実験教室ー

(プラスちゃんくらぶ)
プラスちゃんくらぶが企画した「プラスと学ぶ理科実験教室」を、新座市教育委員会生涯学習スポーツ課にご協力いただき、市内3つの小学校の「ココフレンド(新座市子どもの放課後居場所づくり事業)」で実施しました。子どもたちは、水性ペンの色を分けるペーパークロマトグラフィーの実験に夢中で取り組みました。

8/7
公開講座



子どもたちが新聞スクラップに チャレンジ

(メディアコミュニケーション学科 石野 榮一教授)
公開講座の夏休み特別企画として、小学校高学年の子どもたちを対象にした「新聞を知ろう! 新聞と友達になろう!」が開催されました。3回目の開講となる今回の講師は、さいたま市立海老沼小学校の菊池健一教諭が担当。子どもたちは興味を持った新聞記事を切り抜き、選んだ理由や感想などを書き込む新聞スクラップ作成に取り組みました。また、大学近くの新聞販売店の協力を得て、腹話術による「販売店の仕事」の紹介も行われました。

7/6
織姫祭



十文字元気プロジェクト みんなで輝こう☆織姫祭2018

(文芸文化学科)
毎年恒例となった織姫祭。文芸文化学科の2年生が中心になって企画しています。今年のテーマは「みんなで輝こう☆織姫祭」。当日はあいにくのお天気でしたが、7号館1階に展示された「七夕にちなんだ川柳展覧会」「フォトコーナー」には、多くの人が訪れました。また、カフェテリアでは留学生のパフォーマンスと今回の目玉企画の「お菓子流し」が行われました。「流しそうめん」ならぬ「お菓子流し」には附属幼稚園の園児も参加し、「みんなの笑顔が輝いた」一日になりました。

7/15
NEW
オープンキャンパス
グッズ



新しいキャンパスバッグと ミラーをプロデュースしました

(オープンキャンパス 学生スタッフ)
何度も会議を重ねて作った、オープンキャンパス学生スタッフプロデュースによる愛情たっぷりの『キャンパスバッグ』と『ローズミラー』が、出来上がりました!
女子だらしかわいいデザインで、オープンキャンパスをはじめ、様々な場面で活用していきます。

国際貢献

ハノイ医科大学に十文字学園女子大学の研究拠点が認められました

本校は、2014年3月にハノイ医科大学と学術交流協定を締結して以来、ベトナムで初の管理栄養士養成のための栄養学専門コース開設を支援し、日本から多くの教員を派遣するとともにカリキュラムの導入を進めるなど、学部全体を「輸出」するような取り組みを進めてきました。その成果が認められ、このほど同医科大学より「十文字学園アジアの栄養・食文化研究部門」の研究室分室が与えられ、研究拠点として認められることになりました。

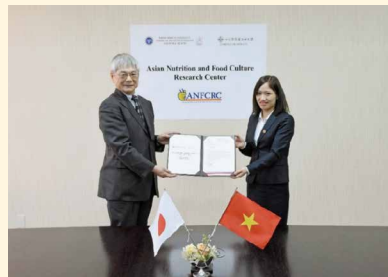
「十文字学園アジアの栄養・食文化研究部門」の研究室は新座のキャンパスにもあるため、研究の拠点が2カ所になります。

今後は食物栄養学科の山本茂教授が室長をつとめ、ハノイ医科大学のゲン・トゥイ・リン博士と本学大学院生のフォン・タオさん（ベトナムからの留学生。2017年秋より本学大学院で咀嚼・嚥下困難者のための「とろみ剤」について研究※）を中心に、運営していきます。十文字学園女子大学とハノイ医科大学が共同して優秀な学生を育て、大学院への進学、共同研究などを通じて、将来のベトナムの栄養界を背

ベトナムのハノイ医科大学に「十文字学園アジアの栄養・食文化研究部門」の研究室分室が開設されました。

負う人材養成の場所としていく構想です。

2018年2月14日に実施された「ハノイ医科大学における研究所分室設置承認書伝達式」の様式。ハノイ医科大学ゲン・ダック・ビン学長からの承認書が、同大教員のゲン・トゥイ・リン博士（右）より志村三夫学長へ伝達されました



本学名が入ったプレートが、ハノイ医科大学の玄関と研究室に設置されています

※「とろみ剤」の研究
肺炎による死亡数の増加は、高齢者の数が増えたことと深く関係しているといわれています。高齢者の肺炎の多くは嚥下障害にともなう窒息や、食物、唾液などの誤嚥などによって発症する誤嚥性肺炎が主であり、日本ではその改善にむけて「とろみ剤」の研究がすすめられ、現在その技術においては世界でも高レベルです。そのため「咀嚼嚥下」「栄養改善」の面からも、ベトナムなど東南アジアからも注目されています。

COC事業

「プラスママの子育てサロン」

COC事業※の研究課題である「+」(プラス)ママの子育てサロン」(正式名称:乳幼児を子育て中の保育者が行う「+」サポートとしての子育て支援事業「+」(プラス)ママの子育てサロン)開催と有効性の検討」に継続的に取り組む幼児教育学科上垣内伸子教授に、5年間の取り組みについて解説していただきました。

幼児教育学科の卒業生の約90〜95%は、保育・教育現場で保育者として活躍しています。そのような保育経験者の卒業生のうち現在家庭で子育て中の卒業生が、幼稚園教諭や保育士としてのキャリアを活かして行うピア・サポート型(＝同じような立場の人によるサポート)の子育て支援事業が「+」(プラス)ママの子育てサロンです。

平成26年度のCOC事業採択と同時に、計画立案、環境設定等を開始し、初年度は3回、以降毎年開催することで市内の子育て家庭への認知度も上がりました。昨年度は12回開催し、参加者も約783人となりました。

魅力は何といっても学内にある施設です。プレイルームやグラウンド、雑木林などで多様な遊びが体験でき、恵まれた自然の中で季節を感じながら、子どもたち、親たち、卒業生のサポートスタッフ「プラスママ」たちが自由に活動しています。

「プラスママ」の「+」には、十文字の「十」と子育てに「+α」という意味を込めました。保育経験者の「プラスママ」たちは、ご自身の子どもと一緒に参加し、スタッフを務めます。そこで、サロ



おそろいのエプロンで読み聞かせをおこなう「プラスママ」たち



プレイルームでの一場面。親子一緒にのびのびと遊んでいます。

ンに参加した親子と子育ての大変さを共有したり、子どもとの関わりについてのコツをアドバイスしたり、一緒に遊びながら子育ての面白さを感じてもらったりしながら進めてきました。今後も学生の子育て支援演習の機会の提供として、また、大学が教育・研究力と人的・環境的資源を活用して行う地域貢献事業として、十文字学園ならではの子育てサロンを続けていきたいと考えています。

(研究代表 幼児教育学科上垣内伸子教授)

※COC事業(地・知)の拠点整備事業
平成26年度文部科学省により採択。大学が地域コミュニティの中心となり、教職員と学生がともに「地域のための大学」として地域の課題解決に努めていくという事業です。

公開講座のお知らせ

講座内容	
10月13日(土) 13:30~15:30	【料理の美学】おいしいものは美しい 講師：土井 善晴氏 コーディネーター：名倉秀子食物栄養学科教授 定員：300名
11月3日(土・祝) 13:30~15:30	三浦しをん氏講演会 (鼎談) 三浦しをん×鳥越文蔵×渡辺保 「先生!...わたしを伝統芸能好きにしてください」 講師：三浦しをん氏(作家)、鳥越文蔵氏(日本近世演劇研究者、早稲田大学名誉教授)、渡辺保氏(本学客員教授、演劇評論家) コーディネーター：赤間恵都子文芸文化学科教授、松永修一文芸文化学科教授 定員：300名

公開講座

料理研究家の土井善晴氏が特別招聘教授に後期「和食文化概論」を講義

「おいしいもの研究所」代表で料理研究家の土井善晴氏が、6月1日付で本学の特別招聘教授に就任しました。

土井先生は、後期より総合科目「和食文化概論」の授業をスタート。すべての学生が受講可能な総合科目として、日本の食文化や和食について原点から考える講義をしていただいています。

「和食の特徴」「和食の美意識」「ハレとケの思想」「調理特性」などの基本的な和食の思想から、さらには「生きるための食を身につけること」そして「和食とは何かを未来に伝えることができること」が講義の目標です。

10月13日(土)には公開講座「料理の美学」おいしいものは美しい」を開催します。

プロフィール
1957年、料理研究家・土井勝氏の次男として大阪府に生まれる。大学卒業後にスイス・フランスでフランス料理を、大阪の「味吉兆」で日本料理を修業。NHK「きょうの料理」、テレビ朝日「おかずのクッキング」、TBS「プレバト」、BS朝日「土井善晴美食探訪」等テレビ番組出演多数。「汁」一菜でよいという提案「フライフック社」など著作活動でも活躍。



大学間連携

園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部と大学間連携に関する協定を締結

2018年8月1日、本学は、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部(兵庫県尼崎市、川島明子学長)と大学間連携に関する協定を締結しました。

本学と園田学園女子大学は、地(知)の拠点整備事業(COC事業)に採択された女子大学として、2014年度以降、情報交換を行いながら連携してきました。

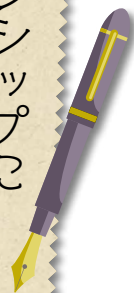
今回の大学間連携協定締結は、相互の教育研究及び社会貢献活動を通じ、教育研究の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会への貢献等に関する大学間の連携をさらに推進し、今後も両大学の教育資源を有効に活用し、教育・研究・社会貢献の取り組みを深めることを目的としています。

今回の大学間連携協定締結は、相互の教育研究及び社会貢献活動を通じ、教育研究の発展、教育内容の充実、人材の育成及び地域社会への貢献等に関する大学間の連携をさらに推進し、今後も両大学の教育資源を有効に活用し、教育・研究・社会貢献の取り組みを深めることを目的としています。

本協定に基づき、以下の分野で協力関係を深めていきます。

- (1) 教育研究の連携に関すること
- (2) 学生間の研修・交流に関すること
- (3) 教職員の研修(F・D・S・D等)の交流に関すること
- (4) 単位互換及び遠隔講義等に関すること
- (5) 大学間の交流、学術交流及び共同の教育研究活動の推進に関すること
- (6) 地域社会への貢献の推進に関すること
- (7) その他大学間の交流等の連携に関すること





学生が企業などで就業体験を行うインターンシップ。目指す企業や職種について理解を深め、よりよい就職活動につなげてもらうために、本学ではインターンシップへの参加を積極的に支援しています。この夏に参加した3人の学生にその内容や感想、意義などを聞きました。

ライター・デザイン部 青井 沙蘭、天羽 菜月、金子 葵



酒井 真奈さん
人間発達心理学科3年
東京都立高島高校卒業
●インターンシップ先
(株)キッズベースキャンプ



原田 瑞希さん
生活情報学科3年
埼玉県立大宮光陵高校卒業
●インターンシップ先
日本電算(株) / (株)エスワイシステム



倉重 朱里さん
メディアコミュニケーション学科3年
埼玉県立久喜高校卒業
●インターンシップ先
(株)スターランドコミュニケーション

Q.インターンシップに参加した理由は何ですか。

実習先は、テレビCMやWeb広告などの企画・制作会社です。将来は映像関係の仕事に携わりたいと考えているので、プロモーションの企画から撮影までを体験できる点に魅力を感じて決めました。

現在、SE (システムエンジニア)を目指してプログラミングなどを勉強中です。知識や技術を学ぶだけでなく、実際のシステムづくりを間近で見たいと思い、ソフトウェア会社2社にお世話になりました。

実習先の会社を知ったのは、「インターンシップガイダンス」での先輩の話がきっかけ。学童保育を实地体験し、子どもたちをサポートするためのノウハウを肌で学びたいチャンスだと思い、参加しました。

Q.インターン先での実習内容を教えてください。

CM制作の見学や手伝いを通じて、企画書・絵コンテの作成、打ち合わせ、ロケハンなど、撮影前の準備作業の大切さを実感しました。また、作業に真剣に取り組むスタッフの方々の姿がとても魅力的で、映像制作の仕事に就きたい気持ちが一層強まりました。

アンドロイドのカメラアプリや、Webページの作成に携わりました。特に後者は5日間の実習期間内に全作業を終わらせ、プレゼンも行うという厳しい課題内容。大変でしたが、SEの仕事の進め方を体感でき、大きな達成感も得られました。

野外キャンプに3日間同行し、スイカ割りなどのゲームや食事の準備、後片付け、子どもたちの世話などを行いました。事前に実習先の保育理念などをチェックしていたおかげで、子どもたちへの対応にも戸惑うことなく、楽しい時間を過ごすことができました。

Q.この経験を今後どう生かしたいと考えていますか。

1つの映像作品には企画・制作・編集・営業など多くのスタッフが関わっていることが分かりました。今後はそれぞれの仕事内容について、業界研究などでさらに掘り下げて学び、自分に向いている分野を絞り込んでいきたいと思っています。

SEは1人で黙々と仕事をするものと思っていましたが、他のインターン生と協力して作業する中でチームワークやコミュニケーション能力の大切さを実感しました。今後は専門分野の勉強に加え、これらの能力向上にも努めていきたいです。

現場で苦労したのが子どもたちの話を「傾聴」すること。特に低学年児との意思疎通には根気が必要だと身に染みました。そのような課題を克服し、将来は、学校や家に居場所がない子どもをサポートする仕事に携わりたいと考えています。



「ペットへの思いを一冊に」 絵本『おるすばん』を自費出版

神奈川県相模原市在住の本学卒業生・後藤典子さん(バードウォッチングが趣味という大の小鳥好き。長年かわいがっていたセキセイインコの「ユラちゃん」を3年前に亡くし、失意に沈んでいた後藤さんが思い立ったのは、人生初の絵本作りでした。



セキセイインコのユラちゃんを主人公にした絵本『おるすばん』(フイツーンリユーション 600円+税)は、Amazonのネット通販で入手可能。

後藤さんがセキセイインコを飼い始めたのは、長女のあずさんの高校受験がきっかけ。受験勉強に追われるあずさん、そして彼女を案じる家族の心を少しでも和らげることができればと、知人の薦めもあって、ペットショップを通して生後2週間のヒナを飼い始めました。

「黄に緑が混ざった羽毛の色が、ゆらゆらと風にそよぐ菜の花畑のようだったので、つけた名前が『ユラちゃん』。たちまち家の人気者になり、娘も無事志望校に合格することができました」と後藤さん。

甘えん坊のユラちゃんは後藤さんたちにすぐなつき、成長するにつれて、いろいろな言葉も覚えきました。夕方、誰かが帰宅すれば、ケージから

飛び出して玄関までお出迎え。家族でテーブルを囲んでいると、仲間に入れてとばかりに肩や頭の上に乗ってきたりもしたそうです。しかし、大人になるとだんだん太りはじめ、やがて心臓が弱って飛ぶこともできなくなりました。「家族の留守中、おやつにあげた粟の実を食べ過ぎたため、手を尽くしましたが、結局、病院で長女と医師に看取られて亡くなりました。9年の生涯でした」。

後藤さんが、ユラちゃんを主人公にした絵本作りを思い立ったのは、それから1年ほど過ぎたころ。「自分自身の心の整理をつける意味もありましたが、私が飼い始めたことで悲しい目に遭わせてしまった家族

や、ユラちゃんへのお詫びの気持ちをは何かの形にしたかったのです」。

後藤さんは仕事の合間を縫って文章を書き上げ、出版社主催の絵本大賞のストーリー部門に応募。惜しくも入賞は逃したものの、担当編集者のアドバイスなどを参考にさらに推敲を重ね、ついに昨年1月、自費出版の形で世に出すことができました。

絵本のタイトルは『おるすばん』。本文の絵は、美大で油絵を専攻したあずさんが担当しました。

「毎日家で寂しくお留守番をしていたユラちゃんが、実は内緒でお外に出かけていたというストーリーです。せめて絵本の中でも楽しく自由に遊ばせてあげたかった」としみじみ話す後藤さん。同じように共働きでペットを留守番させている人には、非常に共感できる一冊かもしれない。絵本大賞の出版社からは、時々、作品募集の案内が届きますが、「ユラちゃんの本が出せたので、個人的にはもう大満足。ただ、今の仕事が一段落したら、今度は野鳥を題材にしてまた絵本づくりに取り組みたいかなとは思っています」と語ってくれました。



セキセイインコのユラちゃん



典子さんと、絵を担当した長女のあずさん

ごとうのりこ
後藤 典子さん

Profile
1982 (昭和57) 年、十文字学園女子短期大学初等教育学科卒業。同年、野村證券入社。結婚・出産を機に一時家庭に入るも、その後パート職で同社に復帰。2010 (平成22) 年には父親の認知症発症を機にヘルパー2級を取得、介護の仕事始める。2013年、介護福祉士国家資格を取得。現在は相模原市内の介護サービス施設で、ホームヘルパー部門の責任者の1人として11名のスタッフを束ねながら多忙な日々を送っている。